

第1回実行委員会開催

学校を開いて…

主催者を育てる

中田さん（一橋大大学院准教授）を招く

できる範囲で
できる形で

5月18日（日）に山口ふるさと伝承センターで「開かれた学校づくり全国交流集会inやまぐち」第7回実行委員会を開きました。県内各地から32名の参加がありました。

今回は中田康彦さん（一橋大学大学院准教授）に「学校

第2回実行委員会

日時 6月22日（日）10時～13時
場所 山口県教育会館5F第3研修室
（山口市大手町2-18）
内容 学習「つながいのち
～地域・親へ開く教育の実践～」
北村陽子さん
（NPO法人光けんじのがっこう）
協議・全体会、分科会の構成
・集会準備
・その他

評価・教職員評価と開かれた学校づくり」と題してお話をさせていただきました。政策としてすすめられる「開かれた学校づくり」と運動としてすすめてきた「開かれた学校づくり」を比較して、その問題点や意義が明らかになりました。特に生徒が当事者として主体的に学校づくりに参加することは主体性と自治能力を育むことになり、ひいては主催者を育てることになるというお話に皆うなずきながら聞きましました。ただ、実際に踏み出そうとすると不安や抵抗感があるのも事実ですが、できる範囲でできる形で行えばよいというお話でした。そして、制度としての学校評価・教職員評価にどう結びつけるかという課題を埼玉県などを例に紹介されました。

質疑も活発に行われ、PDC Aサイクルのねらい、授業評価の実態や教職員評価との関連、山口県の三者懇談会などの質問や現場の実態が出され、中田



活発な質疑の行われた学習会

難居を低く
居心地よく

実行委員会では役員体制を承認し、意見交換を行いました。山口県の今後に生きる集会にしたい、小中学校でこそ必要と思ふという意見や保護者の参加者からは、先生ばかりでは出づらぬ、敷居を低くし居心地のいい会にしてほしいという意見も出されました。

分科会は、課題別で設定し、教育行政や障害児教育、幼児教育も設けよう。閉会集会を行い、特徴的なレポートの発表をしたらいいのではないかと、マスコミに早く知らせようなどの確認をしました。